様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月　８ 日現在

機関番号：３４３１４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2021
課題番号：１７Ｋ０４５８７

研究課題名（和文）日本仏教教育の戦前と戦後の連続性と非連続性―宗教教育の公共性に向けて―

研究課題名（英文）The study on the continuity and the discontinuity of Buddhist education between the prewar and the postwar Japan: Toward the publicness of the religious education

研究代表者
川村　覚昭（KAWAMURA, Kakusho）

佛教大学・公私立大学の部局等・非常勤講師

研究者番号：９０１１３０５０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：　教育学研究において盲点となっていた宗教、特に仏教が明治維新以後現代までに果たした人間形成を浄土真宗と禅宗について教育哲学の視点から究明した。そこで明らかになったことは、①浄土真宗と禅宗の仏教教育は共に近代日本の教育方針を翼賛したこと、②このため戦前と戦後の間に功罪と断絶があること、③このため戦後の仏教は功罪の反省から仏教特有の教行の教育的普遍性を追求したこと、④そこには宗派的イデオロギーを超えた公共性があること、である。その意味で、仏教と教育の関係を教育哲学的に問い直し、現代教育学の課題である、人間／道徳／宗教の公教育的可能性を提示することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究は、明治以後の日本とハワイにおける仏教の教育と教化が現代に招来した意味と結果を教育哲学的に考察し、宗教教育を認めない現代教育にそれを可能にする公共的視点を与えることに努めた。その研究成果は、学術誌『日本仏教教育学研究』『教育哲学研究』『プロテウス』『龍谷教学』更に国際学術誌『日中浄土』及び大学紀要『佛教大学教育学部学会紀要』での論文発表、また日本佛教学会編『仏教事典』の執筆、国際学術大会である「第16回日中仏教学術交流会議」や国内学術大会での発表、科研費研究成果報告書での論文発表で公表した。その意味で、本研究の学術的・社会的意義を内外に示すことができたと考えている。

研究成果の概要（英文）：　The religion, especially Buddhism,is fully unclarified in the pedagogical study. Therefore, from the standpoint of pedagogical philosophy, we focus on Shin- and Zen-Buddhism and examine what role they played in the human formation from Meiji-era till today. Consequently we can lead to the following conclusion; ①The Buddhist education of Shin- and Zen-Buddhism cooperated the educational policy in modern Japan, ②It has the gap and the merits and faults between the prewar and postwar era, ③The postwar Buddhism-sects pursued the educational universality which Buddhists assumed should be inherent to their teaching and practice, ④Buddhism has the public and common character beyond the ideology of sect. Thus, we succeeded to inquire a new problem lurking the relationships between Buddhism and education from a viewpoint of pedagogical philosophy, and show the possibility of reconsidering public education of human being, morality and religion, which is subject of modern pedagogy.

研究分野：教育哲学

キーワード：仏教教育　教化　浄土真宗　禅宗　宗教教育　公共性　功罪　人間形成

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

本研究を開始するに当ってその背景となったのは、平成 18 年の教育基本法の改正において第 15 条の宗教教育の条文に改正前の教育基本法にはなかった「宗教に関する一般的な教養」の文言が入り、宗教に関する教養教育の可能性が国公立の学校に出てきたことである。われわれは、こうした文言が挿入された以上、宗教的教養教育が人間形成に対してどのような意味を持つのか明確に検証されなければ、この文言自体が空文に帰すると考えたのである。

われわれは、教育学の原理的な研究領域である教育哲学を専門にし、人間形成の本質的な問題として人格の宗教的要素に重要な教育学的意味があると考えてきた。しかし、我が国の伝統的な教育学研究は、宗教を人間形成の問題として正面から考えることが殆どなかった。われわれは、我が国の教育学研究のこうした現状を近代教育学の問題点として教育哲学の立場から指摘し、その脱構築を東洋の中心思想の一つである仏教によって行われなければならないことを主張してきた。川村の『教育の根源的論理の探求―教育学研究序説―』（晃洋書房、2002 年）や小池の学位論文である『道元の禅思想における人間形成の研究』（平成 20 年 3 月）はそのことを論理化したものである。しかし、われわれの問題意識は、単に近代教育学の問題点を取り出すだけでなく、仏教と教育の関係性を正面から問題にする仏教教育学の研究を進め、各種の論文を発表してきた。川村の「浄土の教育学―教育の構造と「私」の本質―」（上田閑照監修『人間であること』燈影舎、2006 年、所収）、笹田の「場所的仏教教育論―仏教教育のトポスへの問い―」（日本仏教教育学会編『仏教的世界の教育論理―仏教と教育の接点―』法蔵館、2016 年所収）、小池の「禅の労働観と人間形成」（『日本仏教教育学研究』第 22 号、2014 年）は、その代表的なものである。われわれは、こうした研究を進めるなかで改めて仏教教育の歴史的意味を問い、日本の近代化のなかでそれが人間形成に深く関わってきたことに注目した。川村の『島地黙雷の教育思想研究―明治維新と異文化理解―』（法蔵館、2004 年）は仏教の近代化に寄与した島地黙雷の教育思想を明治維新期に焦点を合わせて明らかにし、明治以後の仏教教育の原点を考察した。小池の「近代教育思想の成立と宗教の世俗化―宗教と教育学―」（笹田博通編『教育的思考の歩み』ナカニシヤ書店、2015 年）は西洋の近代教育思想に注目し、宗教と教育学の歴史的関係を論じた。

われわれは、以上のように人間形成の問題を仏教思想の教育性・教化性に注目して研究実績を積み上げてきたが、こうした研究は、今までの教育学研究の領域においては殆ど見られないものであり、稀有なものと言ってよいであろう。しかもこうした研究において明らかになったことは、仏教が教育的公共性の発揮によって日本社会を牽引するが、そのさいの功罪について教育学も教育史も問題にしていないことである。教育基本法の改正と道徳の教科化で宗教的教養教育の可能性が出てきた今日の状況を考えると、仏教教育に対する教育学的・教育史的認識がこのような状態にあることは極めて危険であり、今回の研究はそうした危険性を意識することから始めることになったのである。その意味では、われわれの研究は先駆的なものと言えるであろう。

２．研究の目的

本研究の目的は、１で指摘したように、明治維新以後現代にいたる近代日本のなかで公共性を発揮し日本社会を牽引してきた仏教教育の功罪を問題にしない限り、宗教と教育の健全な関係を構築することはできないと考えられるため、仏教教育を主題化し、その功罪を歴史的に精査することによって公教育における宗教教育の危険性を仏教教育の側面から明確にすること、そして人間形成における宗教的教養教育の意味とそれを実現する宗教教育の公共性の地盤を教育哲

学の立場から獲得することである。

３．研究の方法

仏教は、各宗派が教義を独自の教育や教化を通して生活に反映させているため、現代でも現実の生活のなかに生きている。しかも究極的には信仰となって日本人の意識と生活を律するため、そこには仏教の公共性の問題が深く内在している。例えば、各宗派に属する寺院が、日曜学校、土曜学校、子供会、ボーイスカウト、ガールスカウトなどを組織して子どもの教育に積極的に参加しているし、大人に対しては壮年会や女性会を組織したり、ビハーラ施設や特別老人養護施設などを開設して成人教育や臨床教育、さらには養護施設、矯正施設、母子福祉施設を設置して矯正教育や福祉教育を行っている。このように、仏教は、仏教系の学校において組織的に教えられるだけではなく、いわば民間のレベルで教育的公共性を発揮しているのである。

こうした活動は、現代になって初めて行われたのではなく、近代日本の始まりとともに開始されている。その意味では、明治以後の近代教育の一翼を担ってきたのであり、人間形成にもたらした影響は無視できないのであるが、我が国の教育学研究はそのことに殆ど注意を払わずにきた。このため仏教教育の功罪に対してもまったくメスを入れずにきたのである。本研究においては、教育学研究のそうした事実に反省を加え、仏教教育の功罪を検証することから始めることになったのである。

したがって、本研究は、第二次世界大戦の敗戦を基点にして我が国の仏教教育が戦前と戦後でどのように変化し、日本人（日系人を含む）をどのように誘導したのか、その連続面と非連続面を教育学的・教育史的に検証するため以下の七項目を研究方法とした。すなわち①戦前と戦後の仏教教育・教化のテキストの収集と読解、②戦前と戦後の各宗派の議会の議事録の調査、③各宗派発行の戦前と戦後の声明集、機関誌、研究誌の調査と収集、④戦前と戦後の宗教を扱う業界紙や各宗派の機関紙の調査、⑤戦前と戦後の思想的・歴史的・教育的文献の収集と読解、⑥仏教教育・教化の実践者の聞き取りと現地（ハワイ）調査、⑦定期的に開催する研究会での研究発表と討議である。

４．研究成果

本研究は、明治維新以降現代までの仏教教育に対して、功罪の観点から戦前と戦後の連続性と非連続性を問い、現代教育学の課題である人間／道徳／宗教の問題を教育哲学の立場から明らかにすることにある。このため日本社会において日本人の意識構造に強い影響を与えてきたと思われる浄土真宗と禅宗に注目し、それらの仏教教育を検証した。禅宗に関しては臨済宗と曹洞宗を問題にした。

浄土真宗については川村が担当し、宗教教育の公共性を教育哲学的に考察する基盤を獲得するため、近代日本における浄土真宗の教育・教化の実態を歴史的に追究するとともに、ハワイにおける開教の実相を検討した。浄土真宗の教育・教化は宗祖親鸞が実存的に獲得した信心を相承することに中心を置いていること、そしてそれを実効あるものにする論理として真俗二諦論（信心を真諦、倫理道徳を俗諦とし、それらが相即するという論理）が前面に押し出されたこと、そこに教育・教化の社会性が出る反面、権力に追随し総力戦に協力する教育・教化が派生したこと、このため戦後は戦前の教育・教化の功罪の反省から真俗二諦論をいかに換骨奪胎して信心を教育・教化するかということが常に課題になっていること、そうしたことが戦前と戦後の教育・教化の歴史的考察から分った。したがって、浄土真宗の視点から宗教教育の公共性の基盤を獲得するためには、信心の普遍性の検討、日本近代における真俗二諦論の意味の解明、そして信心を体現した親鸞的人間性の追究が不可欠であることを指摘した。こうした近代日本における教育・教

化に対してハワイにおける開教の実相は、最初から浄土真宗が日系人の精神的拠り所となっており、功罪という視点から言えば、戦時中の日系人強制収容という被害者的側面が強いため、戦後はむしろ日系人のアイデンティティー形成の側面から信心の連続的強化が図られ、教育・教化に対する反省は殆どなされていないことである。その点で、日本とハワイにおける教育・教化の現実は対照的であると言える。

臨済宗については笹田が担当し、公教育における宗教教育の可能性を闡明してゆく際の地盤を獲得すること、すなわち、道徳教育を改めて宗教教育との原理的連関のうちへもたらすことを目指しつつ、禅仏教、特に臨済禅で提示された「修行」「修養」の思想を基調とすることによって、臨済宗の教育と教化がいかなる特質を有するものであるかを①明治期、②大正期～昭和前期、③昭和後期および④平成以降といった四時期に亙って教育学的に考察し、そこから、臨済宗教育・教化の連続性／非連続性に一つの省察を加えた。そこで判明したのは臨済禅の本相と民衆教育・教化との乖離の問題や、教育・教化における浄土真宗的信心の影響である。さらに、「臨済宗における戦前と戦後の教育と教化」をテーマとする研究の一環として、臨済宗の海外布教がいかなる動向を有するかを概観・考察することを試み、具体的には、とりわけ北米布教に見られる臨済宗の海外布教の展開過程について、釋宗演の海外布教に見られる臨済宗の海外布教の展開様相について、また、宗演の弟子たち（鈴木大拙、釋宗活、佐々木指月、千崎如幻）に見られる臨済宗の海外布教の展開様相について検討した。

曹洞宗については小池が担当し、西洋の「宗教」との出会いによる「仏教の近代化」の視点から次の十一の問題、すなわち①西洋化、②学問化、③個人的な内面的信仰の確立、④社会活動の展開（社会化）、⑤近代仏教思想と政治的イデオロギーとの結合（政治化）、⑥仏教系新宗教の成立、⑦民俗の再編、⑧伝統教団の教団制度の形成（制度化）、⑨先祖観と先祖供養の編成、⑩グローバル化、⑪植民地主義を取り上げ、近代日本とハワイにおける曹洞宗の教育・教化を明らかにし、仏教教育の「公共性」に向けた展望を試みた。曹洞宗では、近代化のなかで「信仰」の問題がキーワードとして浮上するが、これを禅宗の本義といかに折り合わせるかが教育・教化の大きな課題となることが分った。また、明治から現代までの功罪に関する検討が殆ど見られないとともに、近代以降つねに三つの懸案、すなわち①永平寺と総持寺の両本山問題、②教義確立の問題、③布教・教化体制の確立の問題を抱え、それらに戦前・戦後ともに苦慮していることが判明した。ハワイについては、大正期までの開教について検討した。そこに見られる教育・教化は、曹洞宗の本義に基づくそれであるというよりは通仏教的なそれであり、組織（曹洞宗）的なものではないことが分った。

われわれの研究成果は、学術誌『日本仏教教育学研究』『教育哲学研究』『プロテウス』『龍谷教学』『教師教育研究』更に国際学術誌『日中浄土』及び大学紀要『佛教大学教育学部学会紀要』での論文発表、また日本佛教学会編『仏教事典』の執筆、国際学術大会である「第 16 回日中仏教学術交流会議」や国内学術大会での研究発表、科研費研究成果報告書での論文発表で公表した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計23件（うち査読付論文　12件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　13件）

１．著者名 笹田博通	４．巻 20号
２．論文標題 道徳・宗教・自然（１）―日本人の道徳教育観の基底―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 プロテウス―自然と形成―	６．最初と最後の頁 99－119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 笹田博通	４．巻 29号
２．論文標題 開かれた仏教教育―場所的思惟の境位において―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日本仏教教育学研究	６．最初と最後の頁 117－122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 小池孝範	４．巻 20号
２．論文標題 明治初期における教化指針としての「三条教則」と仏教―三条教則に対する曹洞宗の対応から―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 プロテウスー自然と形成―	６．最初と最後の頁 139-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20569/0005690	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 川村覚昭	４．巻 32号
２．論文標題 現代日本における道徳教育の根本問題―教師の良心と仏教原理―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 教師教育研究	６．最初と最後の頁 87-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 笹田博通	4．巻 19号
2．論文標題 宗教と教育の間へ（2）―啓蒙時代の宗教観を基調に―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 プロテウス―自然と形成―	6．最初と最後の頁 111-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小池孝範	4．巻 19号
2．論文標題 18世紀後半のドイツにおける公教育思想の展開―宗教と道徳の位置づけを中心に―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 プロテウス―自然と形成―	6．最初と最後の頁 13-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 川村覚昭・笹田博通・小池孝範	4．巻 27号
2．論文標題 戦前の日本仏教教育の原理と方法―布教教化の原理と実践理論―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本仏教教育学研究	6．最初と最後の頁 51‐69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 川村覚昭	4．巻 119号
2．論文標題 近代日本における仏教の教化性と教育性―特に真宗について―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 教育哲学研究	6．最初と最後の頁 94-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 川村覚昭	４．巻 27号
２．論文標題 書評長澤昌幸『一遍と時宗教団』	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日本仏教教育学研究	６．最初と最後の頁 87-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 川村覚昭	４．巻 28号
２．論文標題 現代の人間学と仏教教育―仏教教育の現代性―	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日中浄土	６．最初と最後の頁 20‐30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 笹田博通	４．巻 18号
２．論文標題 宗教と教育の間へ（１）―啓蒙時代の宗教観を基調に―	５．発行年 2018年
３．雑誌名 プロテウス―自然と形成―	６．最初と最後の頁 179-190
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 川村覚昭	４．巻 37号
２．論文標題 現代日本における道徳教育の根本問題―仏教教育の必要性―	５．発行年 2018年
３．雑誌名 京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会会報	６．最初と最後の頁 35-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小池孝範	4．巻 18号
2．論文標題 フランス革命期における宗教と道徳の位置づけについて―宗教観の変容とその社会的受容の視点から―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 プロテウス―自然と形成―	6．最初と最後の頁 153-168
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小池孝範・蔭山佐智子・佐藤修司	4．巻 74号
2．論文標題 戦後教育改革の黎明期における公民教育構想―道徳教育改革との関連をふまえて―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 秋田大学教育文化学部研究紀要教育科学	6．最初と最後の頁 37-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20569/00003737	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 川村覚昭	4．巻 26号
2．論文標題 道徳教育における仏教教育の位置	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本仏教教育学研究	6．最初と最後の頁 3‐23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 川村覚昭	4．巻 17号
2．論文標題 親鸞における「悪人正機」の教育学的意義	5．発行年 2018年
3．雑誌名 佛教大学教育学部学会紀要	6．最初と最後の頁 27‐38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 笹田博通	4．巻 26号
2．論文標題 道徳・宗教・教育―仏教教育学の視点において―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本仏教教育学研究	6．最初と最後の頁 79‐93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小池孝範	4．巻 26号
2．論文標題 仏教教育と道徳教育の接点―日本の近代公教育黎明期における宗教と道徳の位置づけから―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本仏教教育学研究	6．最初と最後の頁 25‐41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小池孝範	4．巻 30号
2．論文標題 不安の時代における仏教の役割―明治期における曹洞宗の取り組みを手がかりに―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 日本仏教教育学研究	6．最初と最後の頁 145-162
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 笹田博通	4．巻 30号
2．論文標題 不安と安心の彼方―仏教教育との関連において―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 日本仏教教育学研究	6．最初と最後の頁 17-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 笹田博通	4．巻 21号
2．論文標題 道徳・宗教・自然（2）―日本人の道徳教育観の基底―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 プロテウス	6．最初と最後の頁 95-118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 川村覚昭	4．巻 55号
2．論文標題 現代社会の教育原理としての浄土真宗と実践の問題―時機相応の親鸞教学形成の根源―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 龍谷教学	6．最初と最後の頁 88-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小池孝範	4．巻 21号
2．論文標題 明治前期の秋田県における道徳教育の状況―『学制』から「改正教育令」期における「教則」を中心に―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 プロテウス	6．最初と最後の頁 131-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　2件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 川村覚昭
2．発表標題 現代社会の教育原理としての浄土真宗と実践の問題
3．学会等名 龍谷教学会議第五十五回大会
4．発表年 2021年

１．発表者名 川村覚昭
２．発表標題 現代教育における道徳教育の根本問題
３．学会等名 現代教育研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 川村覚昭
２．発表標題 現代日本における道徳教育の根本問題―仏教教育の必要性―
３．学会等名 第38回全国私立大学教職課程協会研究大会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 川村覚昭
２．発表標題 親鸞における「悪人正機」の教育学的意義
３．学会等名 現代教育研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 川村覚昭・笹田博通・小池孝範
２．発表標題 戦前の日本仏教教育の原理と方法―布教教化の原理と実践理論―
３．学会等名 日本仏教教育学会第27回学術大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 川村覚昭
２．発表標題 現代の人間学と仏教教育―仏教教育の現代性―
３．学会等名 第16回日中佛教学術交流会議（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 小池孝範
２．発表標題 社会教育としての仏教教育と道徳教育
３．学会等名 第5回仏教教育学研究会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計4件

１．著者名 笹田博通、小池孝範、山口匡、相澤伸幸、八幡恵、吉川友能、走井洋一、齋藤雅俊、坂本雅彦、紺野祐、奥井現理、神林寿幸、清多英羽、池田全之、盛下真優子、寺川直樹	４．発行年 2018年
２．出版社 福村出版	５．総ページ数 216
３．書名 考える道徳教育―「道徳科」の授業づくり―	

１．著者名 川村覚昭、伊藤真宏、織田顕祐、楠淳證、中島志郎、原慎定、野口圭也、石井公成、赤池一将、一郷正道、上島享、大内文雄、岡野潔、落合俊典、木越康、ケネス田中、佐久間秀範、島薗進、下田正弘、釈徹宗、他185名	４．発行年 2020年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 699
３．書名 仏教事典	

1．著者名 小池孝範、水野雄司、貝塚茂樹、江島顕一、小谷由美、山田真由美、古川雄嗣、川久保剛、山内翔太、赤井洋一、足立佳菜、荒木寿友、関根明伸	4．発行年 2021年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 332
3．書名 道徳教育はいかにあるべきか　歴史・理論・実践	

1．著者名 川村覚昭・笹田博通・小池孝範	4．発行年 2022年
2．出版社 私家版	5．総ページ数 292
3．書名 日本仏教教育の戦前と戦後の連続性と非連続性―宗教教育の公共性に向けて―	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	笹田　博通 (SASADA Hiromichi) (80154011)	東北大学・教育学研究科・名誉教授 (11301)	
研究分担者	小池　孝範 (KOIKE Takanori) (80550889)	秋田大学・教育文化学部・准教授 (11401)	

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関